

氏 名	オオ ハシ サチ コ 大 橋 幸 子
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	博第891号
学位授与の日付	平成25年3月23日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項該当 課程博士
学位論文題目	地方部の魅力と居住条件にみる地域の持続性に関する研究 (Sustainability Study for Provinces from the Viewpoint of Regional Attractions and Residential Conditions)
論文審査委員	主 査 教 授 藤 田 素 弘 教 授 秀 島 栄 三 准教授 鈴 木 弘 司 教 授 兼 田 敏 之 教 授 磯 部 友 彦 (中部大学)

論文内容の要旨

地方部では、従来からみられる都市部への人口流動に加え、地域経済の低迷等による雇用減などから、人口の社会減に拍車がかかっている。また、生活関連サービスの享受という面でも、車の運転ができない高齢者の増加や、鉄道、バス等の事業者の採算性向上のための撤退、施設の閉鎖・撤退・統廃合等により、一部の人については生活関連サービスの低下も懸念されている。一方で、地方部への移住という動きが近年注目されている。これは、地方部の魅力が十分に存在することを示していると言える。

この地方部の魅力にひかれた人が地方部に移り住むことで、地方部の活性化が期待されるが、現実には生活関連サービスへの危惧が障害となっている。その解決のためには、地方部に魅力を感じる人の特徴や魅力となりえる事項の抽出、対象者の属性により異なる生活関連施設の必要性の把握等が必要であるが、これらについてまとめられた研究は見られない。そこで、本研究は、地方部の魅力と居住条件にみる地域の持続性に関する研究として、地方部の地域の実情をふまえつつ、地方部の地域の魅力を探り、魅力にひかれた人が自然に移り住める地域を考えることで、多様な暮らし方が実現する社会に寄与することを目指した。

本稿は、7章で構成した。第1章で研究の背景と目的、位置づけ、流れを述べたうえで、第2章で地方部の地域の実情とその把握手法について述べた。第3章、第4章で地方部への移住者の特徴と地域の魅力を探り、第5章では生活関連施設までのアクセスに着目し実態と充足度について述べ、第6章では生活関連施設のうち救急医療施設を取り上げ現状分析と改善策のシミュレーションを行った。

研究に先立ち、地方部の実情把握を行った第2章では、人口減少が先行し過疎問題等を抱える地域について、地域実情調査によって地域の事象の変化と関連を調査し、得られた地域の状況を統計データにより簡便に示すことを試みた。その結果、人口減少が先行し過疎問題等を抱える地域の地域コミュニティを取り巻く状況について、各事象の関連を整理した。またそれらの事象の関連の一部を、統計データで簡便に示し、公共事業を取り巻く地域の状況を把握するための一手法として提案した。

地方部の魅力に着目した第3章では、新たな潮流である地方部を志向する人の価値観の調査と分析を行った。その結果、本調査における移住者の価値観の特徴として、移住に際し、移住者は職の有無ややりがいを重視しており、また、休暇と余暇も充実した環境を求めていることが明らかになった。またその差異の移住先の検討においては、より条件の合う環境や住居を求めているとともに、地域での人付き合いがうまくいか不安を感じていること、移住後の生活の中で、家族や生活環境などの日常をとりまく環境や、地域の中での人間関係を重視していることなどが分かった。

第3章と同じく地方部の魅力に着目した第4章では、地方部へ移住した人を対象に移住理由等について調査を行うことで、移住者から見た地方部の地域の魅力を調査した。その結果、本調査における移住者の意識として、地方部の物的資源の享受、地方部の物的資源の活用、地方部の人的資源への貢献・帰属を実現できる環境が、地域の魅力となっていること、都市部と比較して利便性が低いことが、地域の魅力を減ずる可能性は低いことなどが分かった。

地方部の居住条件に着目した第5章では、生活関連施設について、住民の属性ごとの必要性を把握したうえで、許容できる時間を調査し、都市規模ごとの充足度を分析した。その結果、世帯構成により施設の必要性が異なること、必要性が高くても許容時間が長い施設があることなどが分かった。また、三大都市圏以外の地域で分析を行った結果、具体的な施設の必要性と充足度に加え、世帯にこどものいる人は必要とする施設が多いことや、人口10万人未満の地域で高度な医療施設、大型ショッピングセンターが必要性が高いにもかかわらず充足している人の割合が特に低いことなどが分かった。

第5章と同じく地方部の居住条件に着目した第6章では、現状の施設・道路ネットワークを踏まえての、救急医療機関への移動に長時間を要する地域の特性と改善策に関する研究として、地域メッシュ単位の搬送時間の試算と、道路ネットワークの強化および県外搬送のシミュレーションを行った。その結果、道路ネットワーク強化は、救急医療機関へ長時間かかる地域に対して、特に短縮効果が大きいこと、県外搬送を行うことにより、救急医療機関へ長時間かかる地域に対して、特に短縮効果が大きいことなどが分かった。本章における、救急搬送に関する地域メッシュ単位での検討からは、救急医療機関まで長時間の地域に対し、道路ネットワークの強化や県外搬送の体制確立など、広域的な改善策が有効であると考えられた。

第7章では、本論文で得られた知見を整理するとともに、多様な暮らし方の可能な社会の実現と今後の地域の持続性について述べた。

論文審査結果の要旨

本研究は、地方部の魅力と居住条件にみる地域の持続性に関する研究として、地方部の地域の実情をふまえて、地方部の地域の魅力を探り、魅力にひかれた人が自然に移り住める地域を考えることで、多様な暮らし方が実現する社会に寄与することを目指した。

本稿は、7章で構成した。第1章で研究の背景と目的、位置づけ、流れを述べたうえで、第2章で地方部の地域の実情とその把握手法について述べた。第3章、第4章で地方部への移住者の特徴と地域の魅力を探り、第5章では生活関連施設までのアクセスに着目し実態と充足度について述べ、第6章では生活関連施設のうち救急医療施設を取り上げ現状分析と改善策のシミュレーションを行った。研究に先立ち、地方部の実情把握を行った第2章では、人口減少が先行し過疎問題等を抱える地域について、地域実情調査によって地域の事象の変化と関連を調査し、得られた地域の状況を統計データにより簡便に示すことを試みた。その結果、人口減少が先行し過疎問題等を抱える地域の地域コミュニティを取り巻く状況について、各事象の関連を整理した。またそれらの事象の関連の一部を、統計データで簡便に示し、公共事業を取り巻く地域の状況を把握するための一手法として提案した。

地方部の魅力に着目した第3章では、新たな潮流である地方部を志向する人の価値観の調査と分析を行った。その結果、本調査における移住者の価値観の特徴として、移住に際し、移住者は職の有無ややりがいを重視しており、また、休暇と余暇も充実した環境を求めていることが明らかになった。またその差異の移住先の検討においては、より条件の合う環境や住居を求めているとともに、地域での人付き合いがうまくいか不安を感じていること、移住後の生活の中で、家族や生活環境などの日常をとりまく環境や、地域の中で人間関係を重視していることなどが分かった。

第3章と同じく地方部の魅力に着目した第4章では、地方部へ移住した人を対象に移住理由等について調査を行うことで、移住者から見た地方部の地域の魅力を調査した。その結果、本調査における移住者の意識として、地方部の物的資源の享受、地方部の物的資源の活用、地方部の人的資源への貢献・帰属を実現できる環境が、地域の魅力となっていること、都市部と比較して利便性が低いことが、地域の魅力を減ずる可能性は低いことなどが分かった。

地方部の居住条件に着目した第5章では、生活関連施設について、住民の属性ごとの必要性を把握したうえで、許容できる時間を調査し、都市規模ごとの充足度を分析した。その結果、世帯構成により施設の必要性が異なること、必要性が高くて許容時間が長い施設があることなどが分かった。また、三大都市圏以外の地域で分析を行った結果、具体的な施設の必要性と充足度に加え、世帯にこどものいる人は必要とする施設が多いことや、人口10万人未満の地域で高度な医療施設、大型ショッピングセンターが必要性が高いにもかかわらず充足している人の割合が特に低いことなどが分かった。

第5章と同じく地方部の居住条件に着目した第6章では、現状の施設・道路ネットワークを踏まえての、救急医療機関への移動に長時間を要する地域の特性と改善策に関する研究として、地域メッシュ単位の搬送時間の試算と、道路ネットワークの強化および県外搬送のシミュレーションを行った。その結果、道路ネットワーク強化は、救急医療機関へ長時間かかる地域に対して、特に短縮効果が大きいこと、県外搬送を行うことにより、救急医療機関へ長時間かかる地域に対して、特に短縮効果が大きいことなどが分かった。本章における、救急搬送に関する地域メッシュ単位での検討からは、救急医療機関まで長時間の地域に対し、道路ネットワークの強化や県外搬送の体制確立など、広域的な改善策が有効であると考えられた。

第7章では、本論文で得られた知見を整理するとともに、多様な暮らし方の可能な社会の実現と今後の地域の持続性について述べた。

なお、本論文は土木学会論文集 F4 などの計4編の審査論文として公表されている。本論文は、地方部の魅力と居住条件にみる地域の持続性に関する方向性を明らかにした点で、社会的意義が大きいといえる。したがって、本論文は博士（工学）の学位論文に値するものと認める。